



2030年の 未来から 現在を考える

今回は、バックカスティングという「持続可能な開発目標 (SDGs)」の特徴をご紹介します。バックカスティングとは、はじめに目標を設定し、その目標を達成した状態から逆算して、いつまでに何をしなければならぬか考えるアプローチです。

例えば、あなたが中学生で、将来プロサッカー選手になりたいならば、「2030年に京都サンガ F.C. の選手としてサンガスタジアム

by KYOCERA で活躍している」といった具体的な姿を設定し、そこから逆算して、いつまでに何をしなければならぬのかを考えるのです。

その際に、目標をぐっと高い位置に置くことがポイントです。圧倒的に高い目標を掲げることで、これま



▲達成したい未来の姿をできるだけ具体的に設定することで、今何をやる必要があるか明確になる。

での取り組みを続けていけば達成できないということにあらためて気づくことができます。その感覚こそ、根底から違うアプローチを考えるチャンスです。

SDGs でも、2030 年までに世界から「貧困をなくす(ゴール 1)」や「飢餓をゼロにする(ゴール 2)」といった高い目標が掲げられています。これらの目標が実現した 10 年後の亀岡市の姿を思い浮かべて、私たちはいつまでに何をしなければならぬか、亀岡のみんなと一緒に考えてみませんか。

高木 超 (たかぎ・こすも)

▶ 慶應義塾大学大学院
政策・メディア研究科 特任助教
亀岡市参与 (SDGs アドバイザー)